

025125-000-7

特14-706

山田ノ栞

湯本 庄左衛門ノ著

M27

ADC-2495



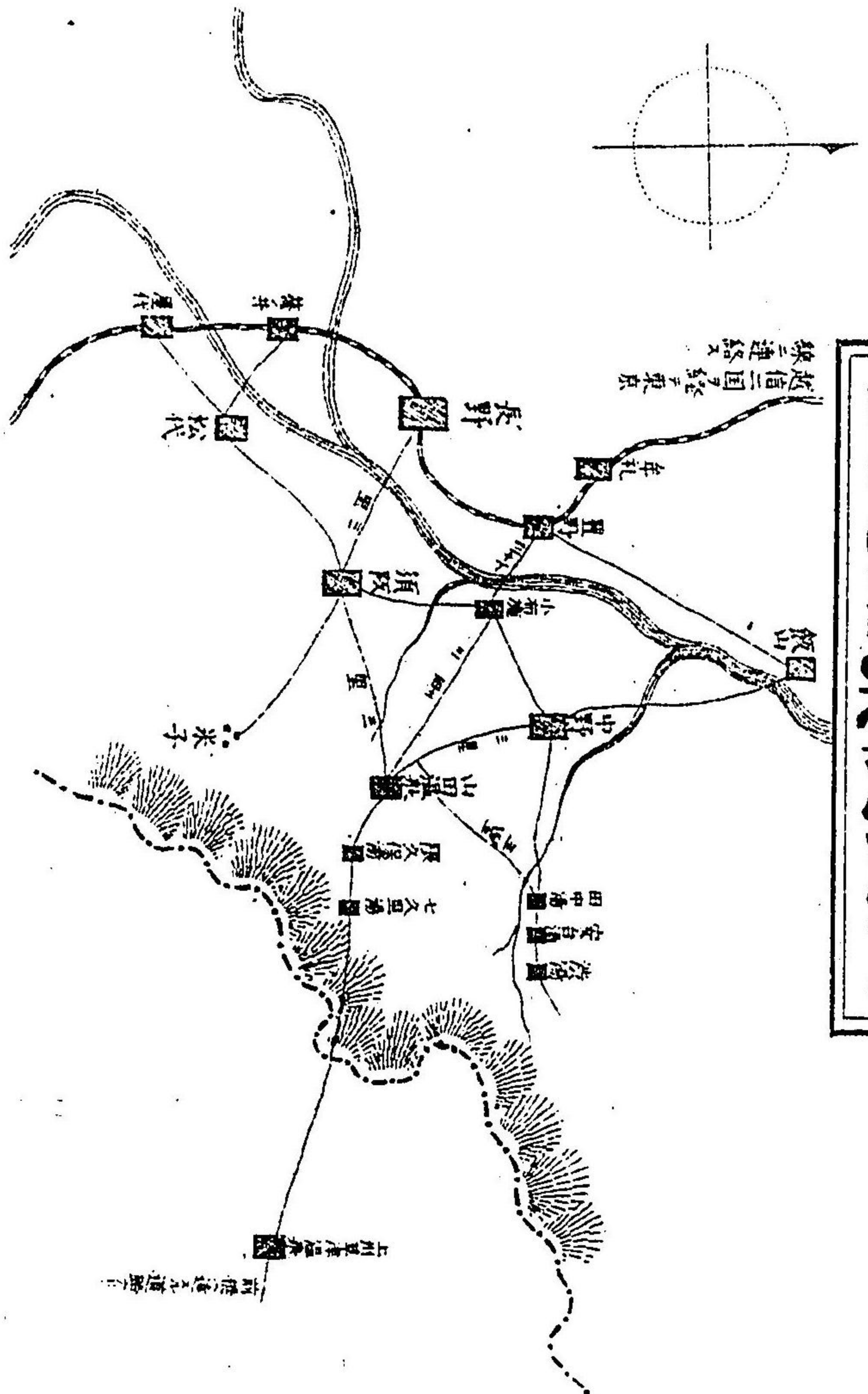
凡例

一本書著述ノ目的ハ當温泉ニ關スル沿革ヲ主  
 該郷諸般ノ出來事ヲ將來ニ傳フルト同  
 時ニ創業者ノ芳名ヲシテ永ク朽ケサラシメ  
 爲片ノ婆意茲ニ從フ事トハナレリ  
 目的已ニ記入セリ  
 且創業者ノ姓名ハ詳細ニ取調ヘ統計  
 類ノ如キハ分毫タモ捨テス精密ニ記入セリ  
 是レ後世沿革ヲ探ル著述大家ノ參考ニモカ  
 ナト思ヘバナリ

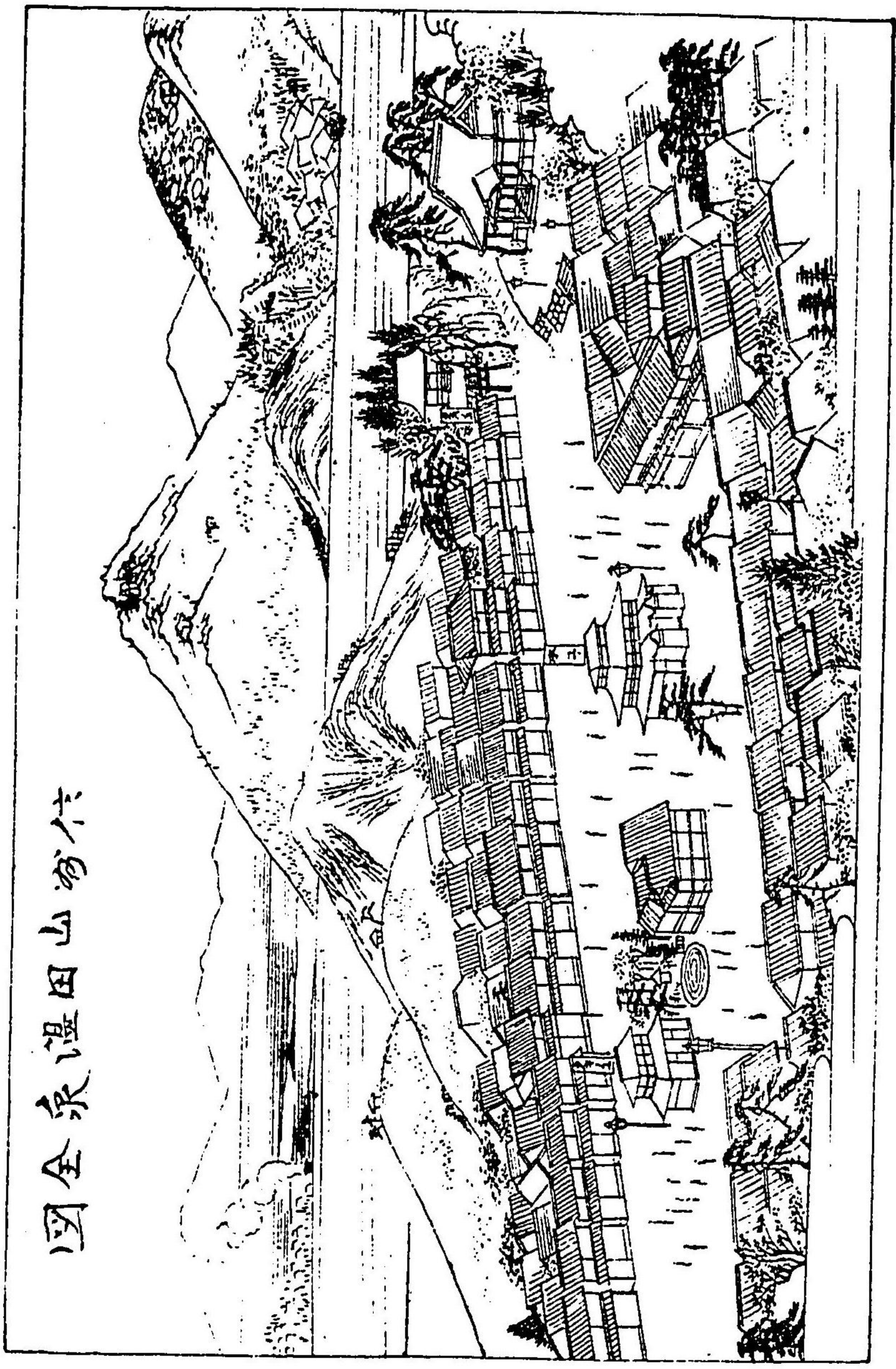
甲午春日

著者識

山田温泉略地圖



越信三國經手東京  
線三遠終

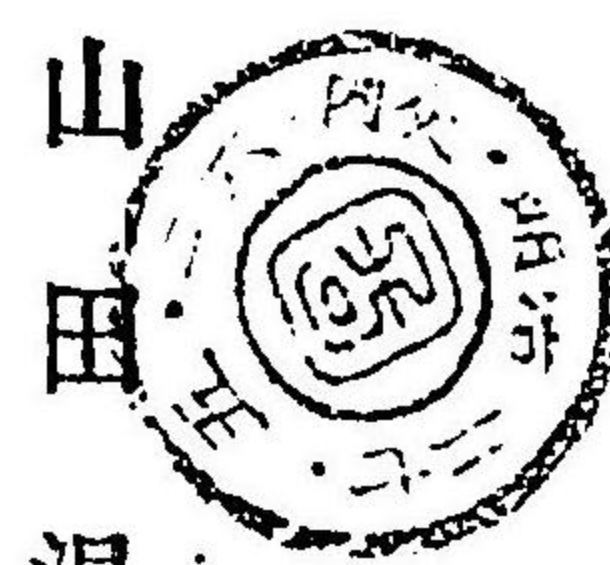


山田温泉全圖

◎牛久保温泉ヲ  
山田温泉ト稱ス  
ルハ山田村ノ諸  
泉中最モ早ク世  
上ニ聲價ヲ得タ  
リ

以テナリ  
○應永年間我山  
田村ヲ領セシハ  
山田小次郎ニシ  
テ今ヲ眞法寺其  
菩提所ナリ木主  
ヲ存ス其文ニ曰  
少萬松院殿實山  
眞法大居士其他  
遺書ヲ存ス  
◎福島正則ノ墓  
碑ハ本郡都住村

山田ノ葉



靈泉館主湯本庄左衛門著  
醫學博士森林太郎校閱

山田温泉ハ往古牛窪温泉ト稱ス元和五己未年(距今二百七十五年)

福島正則封ヲ信濃ニ移スニ及テ之ヲ建議シ公許ヲ得始

メテ浴室ヲ字湯平(現今温泉ヨリ東ニ距ルコト四十余)ニ築造セリ後其地狹隘

ニシテ雪中來浴者ノ便ヲ欠クヲ以テ寛政二庚戌年(當時)

郡中之條役所代官野村八藏(之)ヲ其許可ヲ得タリ距今百〇五年湯本庄左衛門湯本藤五郎泉流

ヲ現今ノ浴場(舊奥山田村字牛窪)ニ曳ク其地位ハ松川ノ北岸ニ在

リ笠嶽横手乳山池之塔ノ山脈三面ヲ擁シ西一面ヲ開キ

字雁田岩松院ニ在リ

表面

海福寺殿月翁正印大居士前三品相公

裏面

寛永元甲子年福島左衛門太夫七月十三日

總高サ七尺五寸余

◎正則ノ長子忠勝ノ墓碑ハ本郡豊洲村字小河原大乘寺ニ在リ表面

香清徹大禪

總高サ七尺五寸

◎正則ノ城址ハ

本郡高井村ニ在リ一寺ヲ建立シ高井寺ト稱ス

◎字湯平ニ於テ

浴室ヲ築造セル証ニハ古文書ノ

外草津温泉往來ノ路邊ニ石造ノ

觀世音アリ其右面ニ明和七寅七

月左面ニ右湯道大河久保村正道

ノ刻アリ是寛政以前温泉原區ノ

相續人舊中山田

長野ノ曠野ヲ寸眸ニ收ム風景ノ閑雅幽邃ナルト泉質ノ温和適切ナルトヲ以テ漸ク繁榮ノ域ニ至レリ近年當温泉ノ鹽類泉ニシテ其名東海北陸ニ稔聞セルヲ以テ其機ニ乘シ各地或ハ貪利ノ洗湯營業ヲナスモノアリ曰ク我洗湯ハ山田温泉ノ湯花ヲ混和セルヲ以テ其効能著シト蓋シ以テ一時ノ僥倖ヲ希圖スルモノ、ミ此温泉ハ其源ニ於テ多少ノ湯花アリト雖モ之ヲ曳ク一十四丁余ナルヲ以テ其間ノ木管土管ニ附着シ現今ノ浴場ニ於テハ到底汲ミ採リ得サルナリ然ラハ則チ別ニ温泉ヲ輸出スルモノアルカ此地ノ商人未タ曾テ此ノ如キモノアルヲ聞カス假令之ヲ輸出セリトスルモ完全ノ功ヲ奏スヘキニ

アラス何トナレハ温泉ノ功ハ特リ其泉ニノミ存セス地勢氣候與テ存養治療ノ力ヲ贊クル者アレハナリ信濃飛驒ノ二邦ハ日本全國中ノ高地ナリ而シテ山田温泉ハ北信ノ東隅ニ在リ圃ハ蕎麥ニ宜シク水ハ茶ニ宜シ其風土天意ノ壽藏タル推テ知ルヘシ其氣温ハ華氏寒暖計ニテ極寒二十度極暑八十八九度ニシテ之ヲ都會ニ比スレハ空氣ニ厚薄鮮汚ノ別アリ若シ果シテ此泉ヲ汲ミ之ヲ他邦ニ輸致スル者アルモ人工煮沸ノ温度ト天然薰蒸ノ温度トハ自ラ其差異アリ而シテ運輸ニ日ヲ經レハ幾干ノ機能ヲ減ス且夫レ自家ノ療養ハ枕邊ニ愛情ノ人多クシテ食ヲ強ヒ心ヲ擾ル是レ生理家ノ大ニ忌ム所ナリ此地

村平藏重八儀左衛門ノ建立ニ係ルモノナルヘシ

◎我山田温泉ハ寛政四年越後國椎谷藩主堀氏ノ所領ニ屬シ子孫相襲キ明治四年藩藉奉還ノ後中野縣ノ處轄ニ歸スルヲ凡半年爾後長野縣管轄トナル

◎舊中山田舊駒場舊奥山田ノ三村共有山ヨリ涌出スル温泉舊奥

ニ在リテハ則チ之ニ反ス新鮮ノ空氣ヲ吸ヒ風光ノ幽雅ヲ樂ミ逍遙自得氣候ノ温和ヲ稟ク若シ其度ヲ計リ沐浴スレハ温泉ノ効力龍ノ雲ヲ得ルニ似タルモノアラシク世間ノ病者苟クモ遠行ニ堪ヘサルニアラスンハ親シク此境ニ臨ンテ療養ヲナスヲ專要トス今若シ輸出品ヲ以テ足レリトスルモノアラバ不遜ヲ顧ミズシテ一便法ヲ進メン曰ク分析表ノ藥品ヲ購ヒ之ヲ和合シテ浴槽ニ投シ之ニ浴セバ液体ヲ遠キニ致スノ煩ヲ免レ其費却テ小ナラント敢テ世上ノ君子ニ寄語ス他ノ洗湯者流ノ瞞着手段ニ陥ル勿レ想フニ此山田温泉ノ隆名ヲ奇貨トシテ其奸詐ノ謀ヲナスモノハ其聲價ノ地ニ落ツルヲ曉足シテ

山田一村ノ地盤ニ引入スルヲ以テ爭端ヲ開キ地頭ニ願ヒ或ハ幕府ニ訴ヘ水火相容レサルヲ十數年タリ庄左衛門藤五郎ノ爲メニハ工事ヨリ却テ葛藤ヲ以テ難シトナス

◎湯本庄左衛門全藤五郎ノ墓碑ハ當温泉藥師堂ノ傍ニ在リ湯繁舜了信士ハ庄左衛門湯榮淨泉信

俣ツベシ其際玉石俱ニ焚カル、ノ謗ハ當温泉ノ與リ知ラザル所ナリ

山田温泉客中偶作 武藏 小野 湖山

閑裡亦知冬景短 餘醒初解日西斜  
快心何啻千金價 浴後飯前三椀茶

山田浴中偶作 全 中島 撫山

跨澗 又穿山 中有靈泉泌  
高濯 俗 寰塵 近傳仙壽術

山田温泉作 伊勢 山内 員川

山園三面樹如屏 一水西流秋氣清  
靈泉難療烟霞病 却爲風光緩旅程

山田温泉偶作 信濃 福島 半山

士ハ藤五郎ノ釋名ナリ明治廿七年編者之ヲ鳳山亭ニ遷ス而シテ木主ハ尙ホ全堂内ニ在リ三人ノ釋名ヲ刻セリ廣運常清居士ト有ルハ本郡都住村字中條竹内源左衛門ノ釋名ナリ全氏ハ引湯工費ノ欠乏ヲ告ケタルキノ金主ナリ

◎山田温泉ノ地ハ海面ヨリ高キ一二千五百十七

誰將靄味計神仙 笠嶽前頭吐藥泉  
 一浴乍生春勃々 何須金碧要延年

全 信濃北村方義

出根靈界翠屏橫 水洗世埃瑤帶縈  
 靈境未由媒俗夢 枕頭素月聽溪聲

觀八瀧紅葉 越後東條文齋

一布飛泉一段奇 奇岩怪峯薦蘿垂  
 孤瓢傾盡楓林下 醉後浴前來賦詩

山田温泉歸途作 相摸豐田魏秀

棧道幽花香始深 夏闌猶聽杜鵑音  
 去來山下仰回首 鞋底雲爲笠上陰

山田温泉客次作 武藏貫名海雲

尺餘

◎湯花ノ言論一タヒ世上ニ流布シテヨリ我地商人遠行ニ堪ヘザル患者ノ需用ヲ欠クヲ憂ヒ毎年一回湯樋掃除ノ際半丁或ハ一丁毎ニ古來ヨリ設置シアル榊ノ中ニ沈澱セルモノヲ汲ミトリ以テ需用ニ充ツ然レモ供給ノ乏シキ爲メ他泉ノ湯花ニ比スレバ幾分

一夜靈泉枕上鳴 淙潺入耳夢魂清  
 館中浴後快眠客 聞盡天然琴瑟聲

隈久保温泉

隈久保温泉ハ明治十一年本村松本柳藏埴科郡東條村宮原磐左衛門ノ嘗ミニ開ケル所ナリ家屋ノ築造粗ナリト雖モ已ニ分析表ニ掲載セル如ク其功能少ナカラズ故テ以テ未タ幾ナラズシテ其聲價ヲ増シ去ル明治廿三年片桐助太郎ナルモノ新ニ一厦屋ヲ増築セリ此温泉ハ山田温泉ヨリ東ニ距ル一四十五丁ニシテ松川ノ北岸ニ位シ目今三條ノ泉脈アリ其一條殊ニ奇ヲ呈シ一日ノ中灰色黃色白色黑色瑠璃色ノ五變アリ故ニ又五色ノ温泉ト稱

高價ナリ

◎七久里温泉ハ  
往昔山田温泉原  
區ノ所有權數村  
ニ分カル、如シ  
山田村外高井村  
大字牧ノ所有山  
ヨリ涌出ス

◎七久里温泉ノ  
南方ニ奇岩アリ  
之ヲ天神岩ト稱  
ス

ス

### 七久里温泉

七久里温泉ハ山田温泉ヨリ東ニ距ル一里半ニシテ松  
川ノ南岸ニ位シ僅ニ五六間ノ中ニ七種ノ温泉ヲ涌出ス  
去ル明治廿三年山田村松本柳藏高井村(大字)山崎源太  
郎ナルモノ各一戸ヲ設ケ浴槽ヲ修繕シ患者ヲ入浴セシ  
ムルニ力メタリ分析表ニ適應セル病者ハ入浴シテ經驗  
アルヘシ傳ニ云フ紀貫之七久里ノ和歌ハ此泉ヲ詠シタ  
ルモノナリト又明治廿六年海上胤平此泉ヲ訪ヘ(七久  
里乃いて湯乃ゆゑた桁ことあ色さへこきて名よろゑら  
るれ)ト詠シタリ



八景紅雲  
八景之湯宮



笠嶽ノ頂上ハ  
七久里温泉ニテ



景色

◎笠嶽ノ頂上ハ  
七久里温泉ニテ  
僅ニ望ムヲ得

浴後隨意ノ運動ヲナスハ温泉ノ功力ヲ翼贊シ且佳勝好  
景ノ人目ヲ娛マシムルハ大ニ健寧ヲ裨補スベキモノナ  
レバ山川風月ノ勝地亦記述セサルヘカラス頼ニ山田ノ  
地風光ノ奇ナル彼李廸ガ潤色ヲ待タサルモノアリ其目  
ニ曰ク雷淵横雲、鬼之抱石、笠嶽暮雪、八瀧返照、荻樓秋  
月、牧山紅葉、藤澤之橋、七久里湯、此景ハ多ク安政年間  
畫工月塙ノ選拔ニヨルト雖モ往々地方雅人ノ取捨ヲ經  
タルモノアリ然レ共滄桑ノ變古ニ宜シクシテ今ニ適セ  
サルモノアリ七久里湯ノ如キハ鶉聲ノ佳境ナレハ宜シ  
ク改メテ七湯ノ杜鵑ト言フヘシ彼笠嶽暮雪ノ如キハ近



◎磁石北ヲ指ス  
「ナキヲ疑ヒ編  
者曾テ親ラ往テ  
試ミシニ幅五間  
長六間許ノ大石  
アリ鐵氣ヲ含ミ  
ヲリ決シテ怪ム  
ニ足ラス

◎笠嶽、頂ハ山  
田温泉ヲ距ル「  
三里

江八景中ノ平野暮雪ニ擬シタルモノナリ蓋シ笠嶽ハ山  
田平穩ノ兩域ニ亘レル高山ニシテ其絶頂ハ能ク越後上  
野甲斐遠江等ノ數國ヲ下視スヘシ晴天ノ日ニハ佐渡ヨ  
リ直江津ニ至ルノ船笠嶽ヲ以テ指針トス古ヨリ傳フ此  
山ノ頂ニ至レバ磁石北ヲ指ス「ナシ」ト明治廿一年本  
村小林熊藏小布施村小林茂作内務省ノ認可ヲ經テ笠嶽  
神社ノ教會所ヲ設ケ是ヨリ信徒此ニ詣ルモノ多シ其境  
靈ハ則靈ナリ然レモ山田温泉ヲ距ル「數里浴者ヲシテ  
暮雪ヲ賞セシムル」能ハズ萩樓秋月ノ如キハ其樓猶存  
シ頭ヲ舉クレバ秋月暉キ頭ヲ低ルレバ清泉流ル風色甚  
タ美ナリト雖モ盛衰常ナク其所有權ノ他人ニ移リテヨ

リ復萩樓ノ名目ナシ

古名よふ人あつかひは月見哉

藤澤之橋ノ如キハ前數景ニ比スレバ稍風致アリ松川ニ  
架シタル欄橋ノ端ニ酒店アリ屋後鬱々青松立テ屋前淙  
々碧水流ル山翁詩ヲ吟シテ瓢酒ヲ負ヒ牧童笛ヲ吹キテ  
老牛ニ騎ル藤花ノ節紫雲横ハリ棣棠ノ候黃霧稠シ牧山  
紅葉ノ如キハ牧村ノ右方ニ中リテ山田温泉ノ南ヲ擁シ  
タル山腹ノ秋景ナリ高井鴻山嘗テ一樓ニ登リテ之ヲ賞  
シ觀楓樓ノ名ヲ命セリ然レモ山腹ノ濶キ東西大ニ其風  
色ヲ異ニス若シ劣ヲ去リ優ヲ探ラバ八瀧紅葉ニ若クモ  
ノナカラシ其他鬼之抱石、雷淵横雲、ノ如キモ無欠ノ選

◎高井鴻山ハ當  
國ノ儒家詩書ニ  
妙ニシテ傍ラ怪  
畫ヲ以テ名アリ

◎不動瀧、春見  
 ノ瀧、冬見ノ瀧  
 等アリト雖モ八  
 瀧ヨリ小ナルモ  
 ノナリ  
 不動瀧ハ山田温  
 泉ヲ去ル一里  
 半余ニシテ不動  
 澤ト唱フル奔流  
 激湍アリ大小二  
 瀑布ヲ懸ケタリ  
 予明治十年不動  
 尊ノ廟ヲ尋テテ  
 得ス自ラ石ヲ樹  
 テ、之ヲ標セリ

拔ト云フヲ得ズ故ニ曩日吾師兒玉果亭地方ノ雅人ニ議  
 リテ左ノ八景ニ改選セラレタリ曰ク八瀧紅葉、鬼岩松  
 聲、中鞍晴雪、温泉朧夜、醫王櫻花、棧道杜鵑、鎌田流螢、  
 釜山明月、

八瀧紅葉

八瀧ハ山田温泉ト五色温泉トノ中央ニ當レル瀑布ナリ  
 大小八九折ニ瀉下ス小ナルモノハ落葉後ニアラザレバ  
 見ルヲ能ハズ大ナルモノハ其高サ八丈秋季風冷ニシテ  
 促織田圃ニ鳴クノ候此景ヲ訪ヘバ兩岸蜀邦ノ錦ヲ染メ  
 一水吳國ノ絹ヲ晒セリ

七回阪過風景幽

愛看兩岸錦雲稠



山田八勝之一

鬼岩松聲

明治十年春 山田温泉 岩



山田温泉  
 鬼岩松聲



颯々林籟鳥巾冷 八折飛泉一道秋

鬼岩松聲

鬼岩ハ往古鬼之抱石ト稱シ山田温泉ヨリ東ニ距ル七十  
 八丁弱ノ所ニ在リ草津温泉ヘノ通路ヲ歩シテ七曲阪ヨ  
 リ北望スレバ山腰ニ群松秀茂シ孤岩アリ高サ四丈二尺  
 八九年前マデ松葦ヲ以テ名アリシガ近來樵夫木ヲ伐リ  
 テ絶無トナリタリ 凡俗ニ雅趣ノ味ナキ寧ロ憐ムベシ

浴餘曳杖步幽途 孤石群松聳一隅  
 此境何須絲竹韻 濤聲彈曲奏清娛

中鞍晴雪

中鞍山ハ山田温泉ノ東方ニ位シ天ヲ支ヘタル高山ナリ

麓ハ大半杉樹ニ包マン頂ハ白雪ヲ戴キ客舎ニ座シテ之  
ヲ望メハ清氣肌膚ニ徹ス冬日ノ愛又掬スヘシ

中鞍山上雪如花 一片寒光映酒家  
半夜開窓人未寐 貪看皓月送清華

温泉 朧夜

山田温泉ハ三春最モ賑ヒ小客舎ト雖モ客數七八十人ヲ  
下ラズ樓上ニハ三絃ヲ弄シ鼓ヲ擊テ笛ヲ吹クアリ深院  
ニハ茶ノ湯插花詩歌ノ興ヲナスモノアリ半夜膏雨過キ  
テ明月朦朧タル時雪暖ニシテ梅花綻ビ人靜ニシテ靈泉  
蒸ス是又一段ノ興味アリ

滿街月色罩春烟

市散燈疎夜寂然



温泉朧夜  
風山堂主人画



遠山堂主人画



風裡嬌歌聲鼻鼻 玉人何處弄三絃

醫王櫻花

醫王ノ櫻花ハ泉郷ノ醫王老閣ノ傍ニ在リ近人ノ栽ル所  
ナリト雖モ早ク既ニ八十年餘ヲ閱シタリ其幹ノ大サ數  
拱ニ至リ開花ノ時節ハ夜山ヲ照スノ奇觀アリ

浴餘賽去藥王前 吟步快然櫻樹邊  
却是暮春風光好 殘紅洩影月痕鮮

棧道杜鵑

棧道ハ山田温泉ヨリ西ニ距ル一三四丁ニシテ車馬往來  
ノ道路ニ架シタリ鎌田ノ堀切ヨリ乘馬通行ノ人ヲ望メ  
バ草蘆三顧一山田或與蜀山同、來往人從棧道通、果有鹽

◎蜀國近傍鹽井  
アリ山鹽ヲ産ス  
野人傳ヘ云フ上  
古軍人ノ食鹽ヲ

ト  
貯藏セシ所ナリ  
◎十七法書ハ王  
義之法帖ノ數ナ  
リ

泉似鹽井、記他十七法書中」ノ圖ヲ見ルガ如シ

浴來始覺此泉靈 痼疾忽癒如夢醒  
獨奈無情蜀魂在 雲埋棧路數聲青

### 鎌田流螢

鎌田川ハ山田温泉ヨリ西ニ距ル一六七丁ニシテ全村ノ  
水田潤ヲ此ニ取ル分派ノ溝渠ニ里半ニ亘リ其水清冽ニ  
シテ松川ノ比ニ非ラズ巖魚ヲ産ス味甚美ナリ暮春ヨリ  
梅雨マテ釣ヲ垂ル、ニ宜シク「碧水淙々十里流、楊花繚  
乱夕陽收、垂綸真趣無垠意、識否人間有此遊秋季ハ網ヲ  
投スルニ宜シ水底ノ白石磷々人ノ心目ヲ滌ヒ波間ノ金  
鱗鮮々網裏ニ潑漑ス」兩岸楓蘆清石泉、丹丘何必學神仙、

一簣一笠人多少、打去網中幾尾鮮」末流螢火多キヲ以テ  
雅人ノ爲メニ其名ヲ知ラル細雨蕭々風ナキノ夜螢火最  
モ賞スルニ耐ヘタリ「あのはたる田毎の月ふ較へみん」  
蕉翁ノ此句鎌田ノ爲メニ詠ジタルモノ、如シ

單行野徑暮雲橫 密々疎々雨未晴  
蘆荻人長溪水闊 波痕乱處有流螢

### 釜山明月

釜山ハ往昔釜谷ト稱ス山田温泉ヨリ西ニ距ル一廿五丁  
ニシテ天神原ト唱フル部落ノ中ニ在リ傳ヘ云フ城趾ナ  
リト之ヲ古書ニ徵スルニ知ルベカラズ村翁ニ問フニ云  
ク先人傳フ慶長年間萬年彌二郎ト云フモノ、居城ナリ

シト釜山ヨリ二丁程ヲ隔ツル所ニ字觀音堂ト稱スル地  
 アリ今猶五輪塔球數十ヲ存ス此堂ハ承應年間ノ山禪レ  
 ナ以テ壞タレリ其証ノ徵スベキモノハ元錄年間村民等  
 堂ノ所有權ヲ爭ヒタル證書中ニ見ユ釜山ハ其形釜ノ如  
 キ一小丘ニシテ西望スレバ千曲ノ清流ヲ望ミ東望スレ  
 バ中鞍山頭ノ月ヲ仰キ遊人ノ心ヲ慰ス

俯看溪曲水如油 白露滿天風色幽

尤是多情一輪月 照來千古釜山秋

此八景ノ外五色温泉近キ所ニ烏帽子岩、螺ヶ岩、アリ草  
 津嶺上ニハ乳山アリ金山ノ傍ヨリ之ヲ望メバ乳房ノ形  
 ナナス



鳳山亭眞  
 西主人海堂  
 采亭老生



山人海堂

- ◎鳥帽子岩ハ通路ヲ蓋ヒ其形鳥帽子ニ似リ
- ◎螺ヶ岩ハ大小五個アリ其形螺ヲ並植セルガ如シ
- ◎鳳山亭ハ鳳凰山ニ建築セシ孤亭ノ稱ニシテ其北ニ峙テル奇岩ヲ麒麟岩ト稱ス
- ◎鳳山亭ハ編者ノ建築セシモノナリ自題シテ紀念碑ヲ建ツ
- ◎鳳山亭十勝飯



乳山のむかし戀しや呼子鳥

又明治廿年ニ設置セシ鳳山亭アリ我温泉無比ノ勝地ニシテ西北ニ距ル一六丁凌雲ノ孤亭林上ニ聳エ萬里ノ風光眼中ニ落ツ爛熳タル山花ハ聲ヲ弄シテ黃鳥ヲ逗メ驟驟タル烟霞ハ千門ノ屋ヲ擁シテ五色ノ彩雲ヲ曳キ溪ヲ回ルノ流水ハ深山ノ冰雪ヲ融ヒテ新柳ノ岸ヲ打ツ「松川や氷もとけてゆくみつの昔あかへる春の初花」秋季ハ千山ノ紅葉壯觀ヲ呈シ光澤ノ如キハ我温泉特有ニシテ他郷ニ其比ヲ見ズ「やまさとの山田のてゆらもみちはい花あもまさるあなれありけり」一たび此亭ニ遊ブモノハ轉々仙郷ニ入ルノ感アリ葺鱸ノ時節ヲ忘ル故ニ



綱山霞、善光寺  
鐘、蒸汽車烟、千  
曲川帆、小屋場  
鷺、鳳凰山櫻、牧  
村山楓、鎌田川  
漁、中鞍山月、麒  
麟岩雪、

◎白根山ハ硫黄  
ヲ産スル僅少ニ  
非ラズ他日道路  
ノ便ヲ得ハ荆石  
玉ヲ出スノ類ナ  
ルヘシ

又忘郷亭ノ名アリ

### 道 路

#### 草 津 道

草津道ハ弘化年間(距今四十  
有余年)藤澤庄藏ノ開ク所ナリ當時  
上下舉テ新起工業ヲ忌ミ東走西奔左袒ノ人ナキノミナ  
ラズ却テ大ニ其業ヲ阻格シタリ氏猶其志ヲ廢セズ自ラ  
樵夫トナリテ地理ヲ究メ先ツ道ヲ松川ノ左ニ採リテ横  
手山ノ澁街道ニ出テタリ而レモ是レ未ダ意ニ愜ハザレ  
バ右シテ白根山(明治十五年八月再ヒ  
噴火山トナリタリ)ニ出ヅ已ニシテ事露  
ハレ土人ノ嫌ヲ受ケ領主(椎谷  
藩主)ノ科ヲ蒙リ晨星帝ナラ  
ザル一人ノ左袒者牧與三郎縛ニ就キタリ是ニ於テ藤澤

庄藏江戸ニ走り久シク跡ヲ没セシカ有志ノ人奔走シテ  
哀ヲ藩主ニ乞ヒ與三郎ノ縛ヲ釋キ庄藏ヲ促シテ郷ニ還  
ラシメタリ氏ノ歸ルヤ舊業ノ端緒ヲ温子テ土人ヲ誘ヒ  
民衆十ノ三ヲシテ巳ガ意ニ隨ハセシガ未ダ幾ナラズシ  
テ病ニ罹リ後事ヲ與三郎ニ托シテ歿セリ牧與三郎ノ業  
ヲ繼クヤ關谷都作之ヲ賛シ藤澤龍右衛門モ亦タ村落ノ  
富豪且雄辯家タルヲ以テ之ヲ助ク是ニ於テ前記左右ノ  
道ノ中間(今日ノ  
草津道)ヲ測量シタリ時ニ江戸ニ地震アリ本  
丸災害ニ罹レリ與三郎等機ニ投シテ幕府ニ獻材ヲ乞ヒ  
又草津温泉中澤善三郎ノ賛助ヲ得テ上州岩鼻縣ニ縣下  
往來ノ許可ヲ受ケ始メテ公道トナルヲ得タリ嗚呼賢徳

◎須阪町製糸場  
總數百ヶ所工女  
總數三千四百人  
余役夫亦之ニ懽  
フ製絲家中最大  
ナルモノハ牧新  
七小田切辰之助  
トス

居士(庄藏ノ釋名)ノ名眞ニ没スベカラサルナリ

### 須 阪 道

須阪道ハ山田温泉開關數年前ニ開ケタルモノニテ年々  
改修ヲ加ヘ車馬往來間斷ナシ當時須阪ハ製絲ノ業盛ニ  
行ハレ建築工業切リニ起リ其俗昔日ニ異リタリ又去ル  
明治廿三年電信ノ架設モアレバ他年ノ盛亦トスベシ

### 小 布 施 及 豐 野 道

小布施道ハ松川北岸ノ山腹ヲ往來スルモノニテ山田温  
泉通路中勾配最モ小ナルモノナリ明治廿二年八月浴室  
(山田温泉)ヲ改築シ開湯式ヲ舉行スルニ際シテ馬車ヲ通行  
セシメシニ其難ヲ見ザリシナリ信越鐵道架設(明治二十一年)前

ハ薪炭輸出米穀輸入ノ道タリシガ小布施ヨリ豊野停車  
場へ馬車道ノ開鑿アリシヲ以テ東海北陸浴客ノ腕車間  
斷チシ小布施ハ上高井郡中須阪ニ次キタル小都會ニシ  
テ商況長野ニ類シ田舎ノ需用ニハ大ニ輕便ノ所アリ抑  
モ豊野ノ馬車道ハ高井辰二(鴻山嫡子)ノ主唱ニヨリ筑水ニ  
舟橋ヲ架シテ開通セシモノナリ是ニ於テ北國往還ヲ分  
岐シ豊野小布施山田ヲ經テ群馬縣下草津温泉ニ達スル  
一直線路ヲナシタレバ縣道ノ新設モ亦遠キニ非ラザル  
ベシ將來我温泉日進月歩ノ勢ヲ呈スル蓋シ刮目シテ視  
ルベキモノアラシ

### 中 野 道

中野道ハ一山ノ踰ニベキアリト雖モ昇降一里ニ過キス  
山田温泉ヨリ中野町ニ達スルニハ小布施、須阪、ト其距  
離ヲ同クス

前記四町村ハ山田温泉ノ要路ニシテ何國ヘ行クニモ之  
ニ由ラザルヲ得ズ

各所ヘノ里程

◎豊野停車場ヘ三里三十丁

關東及北越ヨリ我山田温泉ニ到ルモノ此停車場ニテ下車ス

△小布施町ヘ三里      △飯山町ヘ六里半

△須阪町ヘ三里      △中野町ヘ三里

△澁温泉ヘ三里      △長野町ヘ六里

△上田町ヘ十六里      △松本町ヘ廿二里

△上州滿座温泉ヘ三里      △上州草津温泉ヘ六里

△上州高崎ヘ廿四里      △上州前橋ヘ廿四里

△越後高田ヘ十六里      △越後直江津ヘ十八里

△越後新瀉ヘ五十一里      △東京ヘ(碓氷通六十二里  
草津通五十二里)

風俗

此地ノ民ハ浴客ヲ宿スヲ專業トスルモノアリ或ハ農或  
ハ商農間又伐木炭焼ノ事ニ從フモノアリ其性質朴温厚  
ニシテ利ヲ捐テ義ヲ取ルノ風アリ近年前村牧ト山地所  
有權ヲ爭ヒ獄結テ解ケズ「八段飛泉濺境界、爭端凝結不  
流論、十三歲月無明斷、今日只看一白翻」爲メニ貧窶ノ

◎本文中總町步  
 總地價ハ山田村  
 共有山林反別千  
 九百九十五町八  
 反一畝廿六步全  
 地價金二百六十  
 三圓廿七錢ヲ合  
 蓄セリ

◎編者ハ開湯祖  
 先ヨリ第四世ニ  
 當リテ同名異人  
 ノモノナレハ卷

傾キアリ原來此地ハ瘠土ニシテ三千百八十八丁五反一  
 畝十三歩ノ廣キ其地價僅ニ五万六千圓七十七錢ニ出デ  
 ズ爲メニ衆議員選舉ノ資格ヲ有スルモノ四百七十二戸  
 中ニ八九名ノミ制限選舉法ノ存スル間ハ到底英雄ハ山  
 間ニ在ラザルナリ

松樹 飽風霜 石泉 濺飛雨  
 結茅 在此中 著書 獨千古

物産

物産ハ挽物細工、箸、湯晒艾、湯花、下駄、野獸、山鳥、家  
 禽、蕎麥、筍、茸、蕨、紫蕨、獨活、馬鈴薯、等ナリ其他菜蔬  
 ニ富ミ魚類ハ乏シト雖モ鎌田、淵澤、平七、三川ノ巖魚



鎌田川漁  
 孫張子





山田温泉  
 平七川ノ魚種

中姓名同クシテ  
 年歴ノ違フ所ア  
 リ讀者諸君ノ諒  
 察ヲ乞フ

◎平七川ノ魚種  
 ハ明治六年編者  
 ノ播スル處ナリ

◎山田温泉  
 一名牛久保温泉  
 分析表

硫化水素 〇、〇〇八五瓦  
 炭酸 〇、一五六八瓦  
 硫酸 多量  
 格魯兒 多量

ハ來賓ニ賞美セラレ海産物ハ汽車ノ運搬ニ頼リテ今之  
 ナ得ルニ便ナリ

○山田温泉

泉 質

鹽類泉

主治効用

内服外用共ニ左ノ諸病ニ効アリ

- (イ) 脂肪過多 (肥胖病)
- (ロ) 慢性便秘 (即常習便秘) 殊ニ坐業ノ便秘
- (ハ) 全身多血、及逆上又上衝症
- (ニ) 肝臟肥大、肝臟充血、門脈閉塞、及痔疾、
- (ホ) 胃腸ノ慢性加答兒、及神經性弛緩症、下腹充

硅酸 極少量  
 礬土 痕跡  
 加爾基 多量  
 麻偏涅失亞多量  
 鐵 痕跡  
 加里 少量  
 那篤倫 少量  
 固形分合計  
 四、九五五瓦  
 溫度百四十四度  
 筒口百二十二度

- 血、
- (ヘ) 依ト昆<sup>ヒ</sup> 垚<sup>コ</sup> 兒<sup>シ</sup> 及<sup>テ</sup> 歇<sup>ス</sup> 私<sup>リ</sup> 的<sup>ナ</sup> 里<sup>リ</sup> 家<sup>ノ</sup> ノ 便秘、
  - (ト) 各種慢性 癩<sup>シ</sup> 質<sup>ク</sup> 私<sup>ス</sup> 及<sup>テ</sup> 仮<sup>ニ</sup> 性<sup>ニ</sup> 關節<sup>ノ</sup> 強<sup>ク</sup> 直<sup>ク</sup> 或<sup>シ</sup> ハ 癩<sup>シ</sup>
  - 麻<sup>シ</sup> 質<sup>ク</sup> 私<sup>ス</sup> 性<sup>ニ</sup> 筋<sup>ノ</sup> 肉<sup>ノ</sup> 攣<sup>シ</sup> 縮<sup>シ</sup> 症<sup>ナリ</sup>
  - (チ) 慢性痛風
  - (リ) 諸<sup>ノ</sup> 焮<sup>シ</sup> 衝<sup>シ</sup> 或<sup>シ</sup> ハ 創<sup>シ</sup> 傷<sup>シ</sup> 後<sup>ニ</sup> ノ 滲<sup>シ</sup> 出<sup>シ</sup> 物<sup>ノ</sup> 或<sup>シ</sup> ハ 組<sup>シ</sup> 織<sup>シ</sup> 肥<sup>シ</sup> 大<sup>シ</sup>
  - (例<sup>ニ</sup> 之<sup>ノ</sup>) 慢性<sup>ニ</sup> 肋<sup>ノ</sup> 膜<sup>ノ</sup> 炎<sup>ノ</sup> 子<sup>ノ</sup> 宮<sup>ノ</sup> 周<sup>ノ</sup> 圍<sup>ノ</sup> 蜂<sup>ノ</sup> 窩<sup>ノ</sup> 織<sup>シ</sup> 炎<sup>ノ</sup>、骨<sup>ノ</sup> 盤<sup>ノ</sup> 內<sup>ノ</sup> 膜<sup>ノ</sup> 炎<sup>ノ</sup>、
  - 等<sup>ノ</sup> ノ 滲<sup>シ</sup> 出<sup>シ</sup> 物<sup>ノ</sup> ヲ 吸<sup>シ</sup> 収<sup>シ</sup> シ 其<sup>ノ</sup> 肥<sup>シ</sup> 厚<sup>ク</sup> ヲ 解<sup>シ</sup> 散<sup>ス</sup>
  - (ヌ) 神<sup>ノ</sup> 經<sup>ノ</sup> 機<sup>ノ</sup> 亢<sup>シ</sup> 盛<sup>ク</sup> ノ 諸<sup>ノ</sup> 症<sup>ノ</sup> 或<sup>シ</sup> ハ 各<sup>ノ</sup> 種<sup>ノ</sup> 神<sup>ノ</sup> 經<sup>ノ</sup> ノ 麻<sup>シ</sup> 痺<sup>シ</sup>、經<sup>ノ</sup>
  - 久<sup>ク</sup> ノ 腦<sup>ノ</sup> 脊<sup>ノ</sup> 體<sup>ノ</sup> 中<sup>ノ</sup> 風<sup>ノ</sup>
  - (ル) 婦<sup>ノ</sup> 人<sup>ノ</sup> 生<sup>ノ</sup> 殖<sup>ノ</sup> 器<sup>ノ</sup> ノ 慢<sup>シ</sup> 性<sup>ニ</sup> 諸<sup>ノ</sup> 病<sup>ノ</sup>
  - (ヲ) 腺<sup>ノ</sup> 病<sup>ノ</sup> (瘰<sup>シ</sup> 癧<sup>シ</sup>)
  - (ワ) 慢<sup>シ</sup> 性<sup>ニ</sup> 皮<sup>ノ</sup> 膚<sup>ノ</sup> 諸<sup>ノ</sup> 病<sup>ノ</sup>

(カ) 累<sup>シ</sup> 久<sup>ク</sup> ノ 梅<sup>ノ</sup> 毒<sup>ノ</sup> 水<sup>ノ</sup> 銀<sup>ノ</sup> 療<sup>シ</sup> 法<sup>ノ</sup> 後<sup>ニ</sup> ノ 患<sup>シ</sup> 者<sup>ノ</sup> ニ ハ 其<sup>ノ</sup> 時<sup>ノ</sup> 期<sup>ノ</sup> ヲ 選<sup>シ</sup> ビ 之<sup>ノ</sup> ヲ 用<sup>シ</sup> ヒ テ 効<sup>シ</sup> アリ

### 入浴法

温泉ニ浴スモ之ヲ服スモ自ラ其定マリアルモノナレハ節度ヲアヤマリ湯害<sup>ユル</sup>ニ罹ルハ温泉ノアシキニ非ラス浴法ヲ守ラサル人ノ罪ナリサレハ此温泉ニ浴スルモノハ左ノ法ヲ守ルヘキナリ

### (一) 入浴度数

一日一回或ハ二回ヲ適度トス

### (二) 入浴時間

午前ハ八時九時午後ハ五時六時ノ間ヲ最良ノ

時トス但シ入浴時間ハ初メ短クシ後漸ク長ク  
 スヘシ即チ十分ヨリ始メ漸ク馴ル、ニ從ヒ之  
 ヲ延バシ終ニハ五十分或ハ六十分ニ至ル又食  
 後一時間以上ヲ經ルニ非ザレハ入浴ス可ラス  
 (三) 服用ノ量  
 服用ハ一日量(一回四勺許ツ)一合二勺半ヨリ始メ  
 後漸ク増シテ二合半ニ至ル

(四) 浴泉温度

華氏ノ九十五度乃至九十九度ヲ定度トス冷ナ  
 ルモ八十一度熱ナルモ百〇四度ヲ越ユ可ラス

○ 隈久保温泉

泉 質 硫 黄 泉

◎ 隈久保温泉

一名五色温泉

分析表

硫化水素 〇、〇八五瓦  
 炭酸 〇、〇三三瓦  
 硫酸 多量  
 格魯兒 多量  
 加爾基 多量  
 麻偏涅失亞中量  
 鐵 痕跡  
 温度百七十八度  
 寬口百四十一度

主治効用

内服外用共ニ左ノ諸病ニ効アリ

- (イ) 慢性筋僂麻質私、及筋強直、慢性痛風
- (ロ) 各種神經病の僂麻質斯ニ因スルモノ
- (ハ) 慢性皮膚病(例之疥癬、白癬、禿瘡、鬚瘡、癩風、濕疹、乾癬、癰瘡、慢性潰瘍、膿疹、及慢性丹毒ノ類)
- (ニ) 梅毒諸病、特ニ頑固ナル經久ノ梅毒諸病
- (ホ) 子宮及卵巢、慢性加答兒
- (ヘ) 月經、不調
- (ト) 慢性關節炎、骨病、創傷炎、遺殘癱瘓
- (チ) 下腹充血、全身多血、肝臟腫大、及鉛、水銀等ノ慢性中毒ニ飲用セシム
- (リ) 喉頭咽頭、慢性加答兒、及氣管支加答兒ニ

吸入セシム

入浴法

前泉ニ同シ

○七久里温泉

泉質

單純泉

主治効用

内服外用共ニ左ノ諸病ニ効アリ

- (イ) 各種慢性痲質斯及仮性關節強直或ハ痲質斯性筋肉攣縮性
- (ロ) 慢性痛風
- (ハ) 諸瘡衝或ハ創傷後ノ滲出物或ハ組織肥大
- (例之) 慢性助膜炎、子宮周圍蜂窩織炎、骨盤内

◎七久里温泉  
 一名七味温泉  
 炭酸 痕跡  
 格魯兒 多量  
 硫酸 中量  
 加爾基 多量  
 麻偏涅叟謨 少量  
 加留謨 少量  
 那篤留謨 少量  
 礬土 少量  
 有機物 多量  
 温度七泉湊合  
 寬口百二十度

◎以上總テ華氏寒暖計ヲ用テ

(一) 膜炎等ノ滲出物ヲ吸收シ其肥厚ヲ解散ス  
 (二) 神經機亢盛ノ諸症或ハ各種神經ノ痲痺經久ノ腦脊髓中風、知覺過敏、依卜昆埤里、歌私的里、神經衰弱等ニ効アリ

但シ新發ノ腦中風脊髓勞、腦腫瘍等ヨリ來

ル漸進痲痺ニハ禁スヘシ

(ホ) 婦人生殖器ノ慢性諸病

(ニ) 貧血諸病及萎黃病

(ト) 慢性皮膚諸病、頑固ノ潰瘍、遲鈍性創傷瘡及

骨瘍

(チ) 慢性貌禮篤病、腎孟加答兒、膀胱加答兒、其他

累久ノ梅毒、水銀劑療法後等ノ患者ニハ其時期ヲ選ヒ之ヲ用ヒテ効アリ



入浴法

前泉ニ同シ

明治廿七年五月十五日印刷

明治廿七年五月廿五日發行

(定價金十錢)

長野縣上高井郡山田村四百五十二番地

著作兼發行者 湯本庄左衛門

長野縣下高井郡中野町三十七番地

印刷者 押鐘與助

長野縣下高井郡中野町三十七番地

印刷所 中野印刷所

賣捌所

長野縣上高井郡山田村山田温泉

廣運堂

全縣全郡須坂町春木町

佐藤崇藏

全縣上水内郡長野大門町

西澤喜太郎

新潟縣中頸城郡高田町吳服町

佐々木舜治

新潟縣中頸城郡直江津新町

高橋恒

全縣刈羽郡柏崎町下町

恒山堂

群馬縣西群馬郡高崎町田町二丁目

煥乎堂

全縣東群馬郡前橋市曲輪町二番地

煥乎堂

